

マック MACC通信

Monozukuri Arakawa City Cluster

第42号

2017年10月10日発行

《主な内容》

- ・「江戸・TOKYO技とテクノの融合展2017」にMACC会員企業4社が出演。
(株)アートランド・(株)東京ベル製作所・
(株)日興エポナイト製造所・松田金型工業(株)
- ・MACCプロジェクト新会員紹介！！
- ・新連載：「中小企業に有利な資金調達制度 Vol.2」

荒川区が進める『MACCプロジェクト』は、荒川区の特徴である多彩な産業集積を生かした、区内企業同士の顔の見えるネットワークの形成を推進することによって、荒川区の産業振興を図るものです。

「MACC通信」では、この『MACCプロジェクト』に関わるホットな情報をお届けします。

「江戸・TOKYO技とテクノの融合展2017」にMACC会員企業4社が出演

中小企業のビジネスチャンスの創出を目的にした「江戸・TOKYO 技とテクノの融合展2017」（主催：東京信用保証協会）が9月28日（木）に東京国際フォーラムで開催され、区内企業9社（うちMACC会員4社）が自社の“イチ押し”製品を出展して、来場者との交流を広げました。

“イチ押し”の製品・技術をアピールし、 ビジネスマッチングを推進

この融合展は、11回目の開催で、今回は東京都内と近県地域の中小企業・小規模事業者約270社と、13の支援機関・団体が参加しました。

会場内は、伝統工芸、生活・サービス関連、環境・エネルギー関連、製造関連、IT・情報通信関連、先端技術など11エリアに分かれ、出展企業それぞれがブースを設け、いま最も力を入れている“一（イチ）押し”の製品・技術を強くアピール。それら製品・技術のビジネスマッチングを図るPR作戦が各社のブースで展開されました。



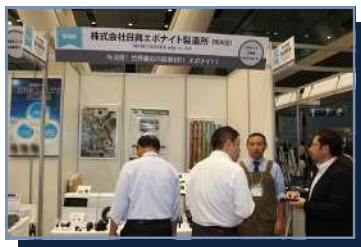
(株)アートランド



(株)東京ベル製作所



(株)日興エポナイト製造所



松田金型工業(株)





(株)オフィスサニー



(株)柿沼人形



(株)川崎精機製作所



(株)シールド



日川電機(株)

荒川区から出展した企業（五十音順、印はMACC会員企業）

出展企業（所在地）	出展した“イチ押し”製品・技術
(株)アートランド（東日暮里）	伝統的工芸技術でつくる錫製品「エテナ」
(株)オフィスサニー（東日暮里）	紙素材のオリジナル紙雑貨製品や書字教材
(株)柿沼人形（西尾久）	木目込み技法の招き猫・トレイ、節句人形
(株)川崎精機製作所（西尾久）	手づくりの理美容・健康器具
(株)シールド（西日暮里）	オリジナル封蝋と事務用品・文具
(株)東京ベル製作所（西尾久）	安全・安心な自転車用・熊避け用ベル
(株)日興エポナイト製造所（荒川）	国内唯一！万年筆などのエポナイト製品
日川電機(株)（西日暮里）	小ロット短納期！樹脂筐体の様々な成型技術
松田金型工業(株)（西尾久）	金型業界初！一体成型型高機能ターボファン

MACCプロジェクト新会員紹介！！

このコーナーでは、新たにMACC会員となられた企業を紹介していきます。今後の展望やMACCプロジェクトに期待することなどをそれぞれ伺ってみました。



金森製袋紙工株式会社

（台東区今戸2-3-7

<http://www.kamikakou.com>）

- ・平成29年3月入会
- ・創業 昭和32年
- ・資本金 1,000 万円

金森製袋紙工株式会社は、封筒や手提げ袋、紙袋を製造販売している会社です。特注品や特殊ものの加工を得意とし、印刷から加工の一貫生産で、お客様の多種多様なニーズにお応えしています。

今後の展望は「現在の業態のままの生き残りが厳しい状況の中、60年蓄積してきた技術や経験を活かした新商品の開発や、お客様のより細かな要望にお応えできる新サービスを展開していきたいと考えています。」

また、MACCプロジェクトには「セミナー等で新製品開発などの知識を習得し、会員皆様との交流を深め、事業の実績や経験をお聞きする機会を得ることが出来れば」と期待を寄せています。



代表取締役社長
平島 庄二郎 氏



カラーワークス株式会社

（荒川区東尾久8-10-4

<http://colorworks-tokyo.jp/>）

- ・平成29年6月入会
- ・創業 平成27年
- ・資本金 1,000万円

カラーワークス株式会社は、紙媒体の販促物全般・ウェブサイトコンテンツ等を手掛けるデザイン事務所で、『人の目を引きつける力、伝えたい想いをデザインに変える力』を使命に、顧客に寄り添った事業展開をしています。

今後の展望は「オリジナルのキャラクターグッズや新製品のデザイン開発・HP作成時のSEO対策において独自のプログラミング構築による幅広い分野への顧客開拓を目指します。」

またMACCプロジェクトには「荒川区発信の技術力ある「ものづくり」において、今後のグローバルなプロジェクトの推進・地域活性化、そして更なる区内“中小・小規模企業”の発展を」と期待を寄せています。



代表取締役社長
川島 陽太 氏



中小企業に有利な資金調達制度Vol.2

昨年度、4回に分けて資金調達ツールの一つとして「クラウドファンディング」について特集してきました。今年度は、「クラウドファンディング」以外の資金調達ツールとしては何があるのか？」をテーマに「中小企業に有利な資金調達制度」について考えていきます。

不動産担保・経営者保証が不要となり得る融資
ABLとは

今回、お知らせする中小企業に有利な融資は、ABL（アセットベースド・レンディング）と呼ばれている融資です。近年は、動産・債権担保融資、動産担保融資とも呼ばれ、だいぶ知名度が上がってきた融資ですが、金融機関での取扱は、なかなか進んでいないのが現状です。その理由は、在庫や売掛金を担保とするため、担保評価が難しいという難点があるからです。

しかし、ABLの利用は、経営者にとって、これまで担保として利用しなかった在庫や売掛金を活用することで借入枠が増えることが期待できますし、金融機関にとっては、企業の在庫や売掛金をモニタリングすることで、より経営実態を捉えることができるものと期待されています。

1. 不動産担保は、なぜいらないのか

そもそも担保が必要な理由は、借金の返済ができないときに代わりとなる経済的な価値を貸手が望んでいるからです。不動産の担保があれば、それを金

第12回MACCプロジェクトフォーラム

「売れる製品づくりから資金調達まで」 ～マーケティングとクラウドファンディング～

『クラウドファンディング』にスポットを当て、資金調達ツールとして、またそれ以外の活用方法として、マーケティングや商品のPR等「売れる商品」についての講演を行います。

個人をはじめ中小・小規模事業者及び創業予定者の皆さんにとって、新しい資金作りをするきっかけになるこのイベントに皆さま“お誘い合わせの上”ぜひご参加ください！

【開催日時】 平成29年12月8日（金）14:00～16:30

【会場】 サンパール荒川 5階 第5・6集会室（荒川区荒川1-1-1）

【対象】 区内外・経営者等を問いません

【講師】 相馬一天氏（日本経済大学 准教授）

【定員】 50人（申込み順）

【締切】 平成29年12月7日（木）

【費用】 無料

【その他】 申込み・お問合せは、荒川区産業経済部経営支援課

TEL:03-3802-4683 FAX:03-3803-2333 電子メールアドレス macc@city.arakawa.tokyo.jp

【プログラム】 13:30～14:00 開場・受付開始

14:00～14:05 開会挨拶及び講演者紹介

14:05～14:50 第一部『クラウドファンディングの成功事例とマーケティングの基礎』

14:50～15:00 （休憩10分）

15:00～15:45 第二部『クラウドファンディングによる資金調達とその他の金融知識』

15:45～16:05 質疑応答

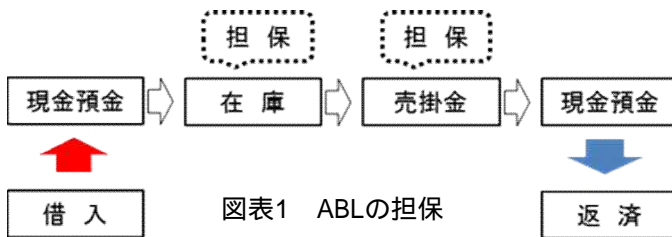
16:05～16:30 名刺交換会



相馬一天氏

銭として返済にあてることができるからです。ABLは、会社が商売するうえで持っている売掛金や在庫を担保とします。いざとなれば、その売掛金や在庫から借金を返済してもらうことができるのです。そのため、売掛金や在庫があって担保としての価値があれば融資を受けることができます。なお、売掛金や担保は不動産と同じように登記をすることが必要です。

図1は、ABLの担保を説明しています。製品が売れば、返済するための現金がはいてきます。現金化する前の売掛金や在庫の状態を担保としており、不動産がなくても融資が利用できる仕組みとなっています。ABLの最大の魅力は、現在利用している融資枠に加えて新たな融資枠を設けることができる点にあります。



先に述べた通りABLの課題は、「売掛金や在庫の価値評価」が難しいことですが、この点についても評価手法が徐々に確立しつつあります。金融機関は、「売掛金や在庫の担保評価」を専門にやっている業者を使う場合がありますし、銀行自体が「売掛金や在庫の担保評価」のノウハウを蓄積している場合もあります。

2. 経営者保証は不要

金融庁や中小企業庁は、「経営者保証に関するガイドライン」の公表をしています（図表2）。経営者の個人保証によって、銀行は審査を、経営者は企業開示をそれぞれおろそかにしているのではないかと、という問題提起が行われ、保証契約のありかたを定めました。簡単にいってしまうと、基本的には**経営者保証をなるべくやめましょう**ということです。その前提として 経営者は、法人の資産・経理、個人の資産・家計を明確に分けるべきであるとする、

- (1)中小企業が経営者保証を提供することなく資金調達を希望する場合には必要な経営状況とそれを踏まえた債権者の対応。
 (2)やむを得ず保証契約を締結する際の保証の必要性等の説明や適切な保証金額の設定に関する債権者の努力義務。
 (3)事業承継時等における既存の保証契約の適切な見直し等。

図表2：経営者保証に関するガイドラインの概要

金融機関がやむを得ず経営者保証を取る場合に経営者にその内容を説明する義務があること、企業の事業承継において金融機関は経営者保証の見直しをすべきであることを定めたものです。

ABLを利用すると必ず経営者保証がいらなくなるというものではありませんが、ABLを利用するということは、必然的に金融機関が経営実態を理解することを求められるので経営者保証が免除される前提を整える効果があるといえるでしょう。実際、ABLを導入することで経営者保証の免除を受けているケースが報告されています。

3. ABLの利点

ABLは、売掛金や在庫等さまざまなものが担保となり得ます。売掛金の代表的な例は、病院における診療報酬等があります。在庫は、自動車部品、紙製品、ペットボトル再生材、中古ブランド品、木材、食品等さまざまです。保管が容易で流通性の高い製品ほど評価が高いと考えることができます。

そして、ABLは、「経営者保証に関するガイドライン」との相性が良いのが1つの特徴です。通常、事業承継においては、後継者の保証が条件となることが多いのですが、ABLを導入することで**後継者の経営者保証の免除**を受けることができ、敬遠されていた事業承継がスムーズに行われたというケースが報告されています。

4. まとめ

ABLは、主として中小企業との取引の多い地方銀行や信用金庫での取扱事例が多く見られます。一部の地方銀行や信用金庫では、行員に動産鑑定（在庫品等の評価）の研修や資格を取ることでABLを積極的に利用しています。そのほか、政府系金融機関の商工中金では、地方銀行や信用金庫と協調してABLに取り組んでいるようです。

荒川区においてもABLを利用できる銀行、信用金庫等金融機関が確認できます。融資枠の拡大や事業承継の経営者保証に悩んでいる方は、検討されては如何でしょうか。

著者略歴 相馬一天

博士（経営学）埼玉学園大学大学院。

専門は金融市場論。

近年は、日米の中小企業を中心に研究。

大学卒業後、銀行、ベンチャー企業を経て、大学教員（日本経済大学）。

荒川区高度特定分野登録専門家



連載～その24～

牛山博文の！ 毛～ひと工夫！

MACCプロジェクトでは4名のコーディネータによる、きめ細かい企業支援を行っています。

このコーナーでは、牛山コーディネータによる生産管理の事例やMACCコーディネータとしての活動報告等を、わかりやすく連載で皆様にお伝えしていきます。



MACCミドルコーディネータ
牛山博文

「思考展開法を使った装置開発 発表会」に参加して

9月8日(金)に早稲田大学工学部において行われたイノベーション創研、ワークデザイン研究会第3回研究発表会において



てMACCおすすめし会会員の株式会社タカハシ(荒川区東日暮里6丁目)の代表取締役 高橋弘明氏が事例発表をされましたので、参加報告を致します。

高橋氏は2014年度に早稲田大学EDGEプログラムのイノベーション創出思考法コースを受講後、経営に活用されており、今回は装置開発についての事例発表を行って頂きました。以下は高橋社長の講演の概要です。



株式会社 タカハシ
代表取締役 高橋弘明氏

『顧客要求以上の品質を

経営の軸に据えている(株)タカハシは、製品であるゴムスポンジワッシャーを1秒間に30個程度個別に検査する目標を立て、検査装置導入の情報収集をしたのですが、小さなスポンジ状の製品を定量的に安定的に搬送供給する技術が世の中になく、あっても1秒間に数個の供給が限界でした。

当初はあきらめていた検査装置ですが、世の中がないという理由であきらめるのではなく、思考法を

活用してMACCプロジェクト牛山コーディネータ、山形大学工学部荒川サテライト田口研究員と共に共同研究を重ね、自らの力で搬送技術の要素技術開発に成功したのです。この技術は特許出願中です。今後自社の工程に実装をして更なる顧客価値創造を目指します。』

事例発表は一時間半にわたって思考法を受講する前と後の装置開発の違いを分かりやすく発表するとともに、日々の経営での思考法の活用や教育に関するトピックを含めた素晴らしい発表でした。この思考法自体は早稲田大学で数十年にわたって研究され、研究会会員は様々な大学の教授や研究者で構成されているのですが、先生方からの質疑応答も活発に行われ、非常に有意義な研究発表内容でした。

研究会の重鎮である高橋輝男早稲田大学名誉教授、黒須誠治早稲田大学名誉教授が講演後に非常に有意義な事例発表であったとコメントされていたのが印象的でした。

ちなみに高橋氏はこの10月から荒川区が提携している山形大学大学院で技術経営学(MOT)を学ばれます。また同時に山形大学地域価値創成学研究所の研究員に就任される予定です。新たな研究生活と共に今後も未来を見据えた目的思考を経営に生かして頂きたいと思います。



MACCコーディネータ TOMMYの部屋 VOL.41



「荒川7S物語PART2」 MACCシニアコーディネータ 豊泉光男



馬肥ゆる秋、いかがお過ごしでしょうか。

今回は荒川区で行っている5S定着メニューの7Sスクールについてお話しさせていただきます。

先日、平成29年9月15日に成果発表、修了式が行われました。

荒川7Sスクールの特徴は

1. 5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰) + 省エネ、サービスの7Sです。
2. 一年間、月1回の各社の現場で行われる。理論と実践の活動です。
3. 3社でのグループ活動で、互いの企業現場でのオープンでインタラクティブな活動です。
4. 講師は著名で実績のある方です。初めての方でも参加企業には7Sアドバイザーがサポートいたしますので、導入前、導入中、導入後の相談はいつでも受け付けます。
5. 一年間のスクール参加費は無料です。
6. 今まで途中でリタイアした企業は一社もありません。
7. 企業によって内容は異なりますが参加企業はそれぞれ成果が上がっています。
8. 参加企業同士からの学びが大変役立ったとの意見が多いです。
9. 参加企業の業種を問いませんが社長が積極的に参加できる企業、人数は10名以上が望ましいです。
10. 参加のご希望や問い合わせは7Sアドバイザー(豊泉)までご連絡なくお問い合わせください。

平成29年度の参加企業は3社でした。A社は履物製造販売業、従業員は30名、7S参加の課題は果たして成果が上がるものか。トップを始め企業に5Sについての知見が余りない。一年継続できるものか。社長の参加はどこまでやるか。等をトップは参加の前に悩んでいました。一年間の活動を経

て、企業として際立ったのは清掃の活動で壁のペンキ塗りを開始しましたが、何と社長が率先してペンキ塗りをしている姿は社員にも他の参加企業にも大きな影響をあたえました。会社全体が見違えるほど明るく、綺麗になり活気が出てきました。B社は乗り物製造業、従業員は9名、7S参加の課題は社員全員が5Sを率先してやっていく方法は。この活動を通じて売り上げをアップさせていく。一年の活動を経て、特に際立ったのは整理の活動ではいるモノと急がないモノと知らないモノに分けていないモノは捨てる。この企業は捨てるゴミとなった部品や仕掛品をフリーマーケットで高値で販売できた。同時に完成品も販売できるルートの開拓を開発できました。ゴミを有価物に変える事ができ、新たな販路の開拓も実行出来た事は大きな成果といえます。企業の売り上げのアップには一年目では残念ながら貢献できませんでした。C社は調理機器製造販売、従業員は25名、7S参加の課題は長期にある在庫の整理を全社で行いたい。5Sを社員全員が自主的に行う。5Sを通じて後継者のリーダーシップを育成したい。一年間の活動を経て、長期在庫は一掃され、トイレの改造、キッチンの改装も行われ見違えるように明るくなりました。加えてこの活動の中心の後継者は一年前は肩書なしでしたが、一年後は専務取締役に就任し、表情に自信があふれています。



7S 成果発表会

<発行> 荒川区産業経済部経営支援課産業活性化係 MACCプロジェクト事務局

〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3 TEL:03-3802-4683 FAX:03-3803-2333

E-mail:macc@city.arakawa.tokyo.jp

登録番号(29)0008-02号